

## 関連事業のご案内

### シンポジウム 「瀬戸染付の発展と展開」

【講 師】 岡本隆志氏（皇居三の丸尚蔵館主任研究員）  
佐藤一信氏（愛知県陶磁美術館館長）

【司 会】 服部文孝（瀬戸市美術館フェロー）

【日 時】 2024年11月23日（土・祝）  
午後1時30分～午後3時30分

【場 所】 瀬戸市文化センター文化交流館31会議室

【定 員】 80名（定員を超えた場合は入場をお断りすることもあります。）  
※事前申し込み不要、参加費無料

### ギャラリートーク（学芸員による作品解説）

【日 時】 2024年11月4日（月・祝）、11月16日（土）  
両日とも午後1時30分～

【場 所】 美術館展示室 ※事前申し込み不要、要入館料

○一部の作品の360度映像を展示室内でご覧いただけます。また、全ての作品解説は、50ヶ国語に翻訳可能です（ご自身のスマートフォンの利用が必要です）。

○展示室内ではフリーWi-Fiをご使用いただけます。

○You can view 360-degree videos of some of works inside the exhibition room  
All work descriptions can be translated into 50 languages (You must use your own smartphone).

○Free Wi-Fi is available in the exhibition room.

## 国際芸術祭「あいち」地域展開事業「底に触れる 現代美術 in 瀬戸」

来年9月から開催する国際芸術祭「あいち2025」のプレ事業として、やきもののまち、瀬戸で現代美術展を開催

本展では、触れたり覗き込んだりしなければ見えてこないものをうつわや壺の「底」になぞらえて、現代アートを紹介します。

【会 期】 2024年10月12日（土）～11月4日（月・振替休日）

【会 場】 名鉄瀬戸線 尾張瀬戸駅周辺のまちなか（50音順）  
旧小川陶器店、古民家レンタルスペース梅村商店、瀬戸市新世紀工芸館、瀬戸信用金庫アートギャラリー、ポップアップショップ、松千代館、無風庵

【観 覧 料】 無料（一部関連プログラムのみ有料）

【主 催】 国際芸術祭「あいち」地域展開事業実行委員会、瀬戸市

【参加アーティスト】（50音順）

井村一登、植村宏木、木曾浩太、後藤あこ、田口薫、津野青嵐、波多腰彩花、藤田クレア、ユダ・クスマ・プテラ、光岡幸一

【公式サイト】

<https://aichitriennale.jp/aichi-art/>



## 近隣施設のご案内（予定）

■瀬戸蔵ミュージアム TEL：0561-97-1190

・企画展「新収蔵品展 2020-2022」  
2024年9月7日（土）～2025年1月19日（日）

・国際芸術祭「あいち」地域展開事業連携企画  
企画展「底・裏を愉しむ」  
2024年10月12日（土）～11月4日（月・振替休日）

■瀬戸市新世紀工芸館 TEL：0561-97-1001

・交流棟企画展「国際芸術祭「あいち」地域展開事業連携企画  
「瀬戸国際セラミック&ガラスアート交流  
プログラムの軌跡－招聘作家寄贈作品展」  
2024年10月12日（土）～11月4日（月・振替休日）

・交流棟企画展「冬のおくりもの展 同時開催：千支の置物展」  
2024年11月16日（土）～2025年1月13日（月・祝）

■瀬戸染付工芸館 TEL：0561-89-6001

・企画展「瀬戸染付 富士の表現」  
2024年8月3日（土）～11月24日（日）

## 次回展覧会

瀬戸市美術館特別展

「九谷赤絵の極致－宮本屋薫と飯田屋八郎右衛門の世界－」

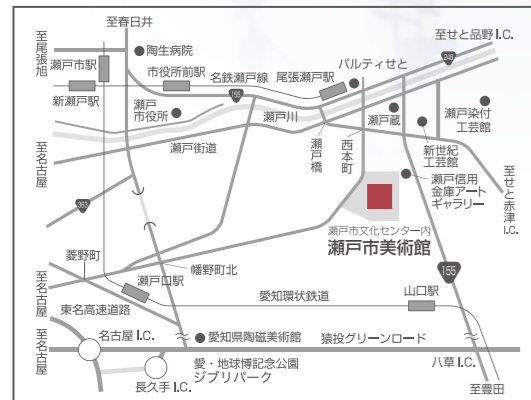
2024年11月30日（土）～2025年2月23日（日）

### 【電車でのアクセス】

■名古屋駅から（所要時間約1時間）  
地下鉄東山線で「栄」へ。名鉄瀬戸線に乗り換え「栄町」から「尾張瀬戸」下車、徒歩13分。

【お車でのアクセス】 駐車場：無料（500台）

■長久手I.C.から（所要時間約30分）  
名古屋瀬戸道路「長久手I.C.」を降りて瀬戸方面へ、グリーンロード「愛・地球博記念公園」、または「八草I.C.」まで行き、左折（北）し、瀬戸市街地へ。  
■せと赤津I.C.から（所要約10分）  
東海環状自動車道「せと赤津I.C.」を降りて瀬戸市街地へ。



瀬戸市美術館 Seto City Art Museum  
〒489-0884 愛知県瀬戸市西茨町113-3 TEL.0561-84-1093

### 【Open】

■9:00a.m.-5:00p.m.(Last admission 4:30p.m.)(Opening at 10a.m. on the first day)

### 【Closed】

■10/8(Tue),11/12(Tue)

### 【Admission fee】

■Adults:¥500(¥400) High school/university student:¥300(¥240)

※Free for junior high school students and younger, those 65 and older, pregnant women, and those with a disability certificate(Mirairo ID accepted).

※Admission fees in parentheses apply for groups of 20 or more

### 【Contact information】

■Seto City Art Museum  
Address:113-3 Nishiibara, Seto Aichi  
E-mail:art@city.seto.lg.jp

### 【Access by train】

■About 1 hour from JR Nagoya station  
To "Sakae" by subway Higashiyama line. Transfer to Meitetsu Seto line "Sakae-machi".  
Get off at "Owari-Seto". Then walk for 13 minutes from the station.

### 【Access by car】

■About 30 minutes from Nagakute I.C.  
Exit at Nagakute I.C. (Nagoya Seto Road). Head toward Seto. Take the Green Road up to the EXPO 2005 Aichi Commemorative Park or the Yakusa I.C., then turn to the left (the north) to go to the Seto city center.

■About 10 minutes from Seto Akazu I.C.  
Exit at Seto Akazu I.C.( TOKAI-KANJO EXPWY).Head toward Seto city center.



## 磁祖加藤民吉没後200年事業

### 国際芸術祭「あいち」地域展開事業連携企画

#### 瀬戸市制施行95周年記念

#### 瀬戸市美術館特別企画展



《染付山水園正方大植木鉢》川本樹吉（初代）・大出東阜画  
明治時代前期（19世紀後期）口径（MD）61.0×61.0  
宮内庁蔵  
《Square jardinières with landscape design, underglaze blue》  
Masukichi KAWAMOTO I., Painted by Toko OIDE  
Late 19c., Meiji period Collection of Imperial Household Agency

# 瀬

# 戸

Seto Sometsuke Ware



重要有形民俗文化財《染付山水園大花瓶》伝加藤民吉（初代）  
江戸時代後期（19世紀前期）高さ（H）46.8  
瀬戸蔵ミュージアム蔵  
Important tangible folk cultural property  
《Vase with landscape design, underglaze blue》  
Attributed to Tamikichi KATO I  
Early 19c., Edo period Collection of Seto-Gura Museum



《染付芭蕉園蓋付壺》加藤紋右衛門（六代）  
明治時代後期（19世紀末期～20世紀初期）  
総高（H）31.4 個人蔵  
《Lidded jar with Japanese banana design, underglaze blue》  
Mon'emon KATO VI  
End 19c - Early 20c., Meiji period Private Collection

# 染



《染付花鳥園手付手焙》川本治兵衛（三代）  
江戸時代後期（19世紀中期）胴径（BD）24.6  
個人蔵  
《Brazier with flower and bird design, underglaze blue》  
Jihyoe KAWAMOTO III  
Mid 19c., Edo period Private Collection

# 付

—軌跡そして技と美—  
Its History, Craftsmanship, and Beauty

## 2024 10.5sat-11.24sun

開館時間：9:00～17:00（入館は16:30まで）（初日は10時開館）

休 館 日：10月8日（火）、11月12日（火）

入 館 料：一般500円（400円）、高大生300円（240円）

※中学生以下、65歳以上、妊婦、障害者手帳（ミライロID可）をお持ちの方は無料  
※20名以上の団体は（ ）内の入館料

主 催：瀬戸市美術館、公益財団法人瀬戸市文化振興財団

特 別 協 力：宮内庁、愛知県陶磁美術館

助 成：令和6年度地域ゆかりの文化資産を活用した展覧会支援事業



## 瀬戸市美術館 Seto City Art Museum

〒489-0884 愛知県瀬戸市西茨町113-3  
TEL 0561-84-1093 FAX 0561-85-0415

# 第一章

Chapter 1

## 瀬戸染付の始まりー初期瀬戸染付

The Origins of Seto Sometsuke - Early Seto Sometsuke

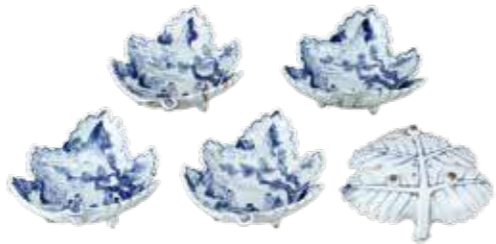
史料上から確認できる瀬戸における磁器生産の開始は、享和元年（1801）のことである。生産の中心となったのが青色の顔料で絵付された染付焼であった。しかし、瀬戸の製品は17世紀初頭に始まった九州肥前の磁器と比べると品質の差があり、後に瀬戸の磁祖となる加藤民吉は、文化元年（1804）に磁器製造技術習得のため九州へと旅立つ。そして文化4年（1807）、瀬戸へ帰国した民吉が習得した技法を伝えると、瀬戸の染付磁器の品質は向上した。

第一章では、瀬戸の磁器が生産開始されたとされる享和年間（1801-04）の作品、民吉の九州修業前後の文化年間（1804-18）の作品に加え、初期瀬戸染付を代表する窯屋である加藤民吉や加藤忠治らの作品を展示する。



《染付山水人物桐葉形皿》  
文化年間（1804-18） 口径(MD)16.3×16.2  
愛知県陶磁器工業協同組合蔵  
《Paulownia leaf shaped dishes with landscape design, underglaze blue》  
1804-18, Edo period  
Collection of Aichi Pref.  
Pottery Industry Cooperation

重要有形民俗文化財  
《染付山水図水指》  
享和年間（1801-04） 高さ(H)16.6  
瀬戸蔵ミュージアム蔵  
Important tangible folk cultural property  
《Fresh water container with landscape design, underglaze blue》  
1801-04, Edo period  
Collection of Seto-Gura Museum



《染付竹園水指》  
文政9年（1826）頃 高さ(H)16.6 個人蔵  
《Fresh water container with bamboo design, underglaze blue》  
c.1826, Edo period Private Collection

# 第三章

Chapter 3

## 瀬戸染付の飛躍ー国内外で際立つその技と美

Seito Sometsuke's Leap Forward - Its Craftsmanship and Beauty Stand Out at Home and Abroad

明治維新が起こり、藩による保護と統制が解消され自由競争の時代になると、新興勢力の窯屋の台頭を見ることとなる。窯数は増加し、技術も向上した瀬戸染付最盛期といえる時代である。当時盛んに開催された万国博覧会へも積極的に出品し、その精巧なつくりと花鳥風月を表した繊細な絵付で瀬戸の磁器は高い評価を得ていくこととなる。

第三章では、万国博覧会出品作や海外からの里帰り品など海外へ輸出された作品を中心に、やきものづくりの近代化が進み、瀬戸染付も時代にあわせて変貌を遂げた明治時代から昭和時代中期にかけての作品を展示する。



《染付松鶴園六角形大投入（一对）》 加藤奎左衛門（二代）  
明治時代前期（19世紀後期） 高さ(H)125.8  
個人蔵（瀬戸蔵ミュージアム寄託）  
《A pair of hexagonal vases with pine and crane design, underglaze blue》 Mokuzaemon KATO II  
Late 19C., Meiji period  
Private Collection (Deposit with Seto-Gura Museum)



《軸下彩龍紫陽花園耳付花瓶》 川本樹吉（二代）  
明治時代中期（19世紀末期～20世紀初頭） 高さ(H)30.2  
瀬戸蔵ミュージアム蔵  
《Vase with handles, dragon and hydrangea design, underglazes》 Masukichi KAWAMOTO II  
End 19C - Early 20C., Meiji period  
Collection of Seto-Gura Museum

# 第二章

# 第二章

Chapter 2

## 瀬戸染付の発展ー川本治兵衛・川本半助を中心に

Seito Sometsuke's Advancement - Kawamoto Jihyoe and Kawamoto Hansuke Lead the Way

磁器生産が開始されて以降、瀬戸の窯屋は次々と陶器から磁器生産に転業していき、文政5年（1822）には染付窯屋86軒となり、陶器生産をしのぐほどに成長した。文政年間（1818-1830）以降になると品質の改良も盛んに行われ、より洗練されたものとなった。この時代を代表する窯屋が川本治兵衛（三代）や川本半助（四代・五代）である。

川本治兵衛は二代が磁器に転業し、以降三代まで優れた磁器を製作した。川本半助は二代が磁器に転業し、以降六代まで磁器を製作し、瀬戸を代表する窯屋として活躍した。

第二章では、三代川本治兵衛、四代川本半助、五代川本半助を中心に、素地の白さ、呉須の発色、釉薬の透明度など染付磁器が一応の完成をみた江戸時代後期の作品を展示する。



《古染付写雲鶴獸文手桶形水指》 川本治兵衛（三代）  
江戸時代後期（19世紀中期） 高さ(H)25.0  
愛知県陶磁美術館蔵  
《Pail shaped fresh water container with cloud, crane and animal design, underglaze blue》  
Jihyoe KAWAMOTO III Mid 19C., Edo period  
Collection of Aichi Prefectural Ceramic Museum

《瑠璃釉染付波に鶴亀図水盤》 伝川本治兵衛（三代）  
江戸時代後期（19世紀中期）  
胴径(BD)38.2×33.0 個人蔵  
《Cobalt-glazed basin with wave, crane and turtle design, underglaze blue》  
Attributed to Jihyoe KAWAMOTO III  
Mid 19C., Edo period Private Collection



《染付牡丹図大皿》  
川本半助（四代） 口径(MD)39.6  
江戸時代後期（19世紀中期） 個人蔵  
《Dish with peony design, underglaze blue》  
Hansuke KAWAMOTO IV  
Mid 19C., Edo period Private Collection

# 第四章

Chapter 4

## 特別展示 皇室の盆器

Special Exhibit | Bonsai Planters of the Imperial Household

皇居における盆栽の歴史は明治時代以降から始まるとされ、昭和時代初期には5,000鉢を超えたという。明治21年（1888）には外観を和風建築、内装を西洋風に設えた明治宮殿が建てられ、その華やかな大空間の宮殿内では空間の大きさに負けない「大盆栽」が求められた。

この盆栽に使用される鉢は、通常「盆栽鉢」と呼称されるが、宮内庁においては「盆器」と呼ばれている。宮内庁大造庭園には瀬戸焼をはじめ、薩摩焼、伊万里焼、九谷焼などに加え舶来品の盆器が収蔵されており、瀬戸焼の盆器はそのほとんどが磁器製のものである。

第四章では、宮内庁の格別なるご協力のもと、皇居を彩った瀬戸染付の盆器7点を特別に展示する。



《染付花鳥園大植木鉢》 加藤奎左衛門（二代）  
明治時代前期（19世紀後期） 口径(MD)79.0  
宮内庁蔵  
《Jardiniere with flower and bird design, underglaze blue》  
Mokuzaemon KATO II Late 19C., Meiji period  
Collection of Imperial Household Agency



《瑠璃釉貼花彫唐獅子牡丹文石台》  
江戸時代後期（19世紀中期） 胴径(BD)96.8×55.8  
皇居三の丸高蔵館蔵

《Cobalt-glazed jardiniere with lion and peony design in relief》  
Mid 19C., Edo period  
Housed in The Museum of the Imperial Collections, Sannomaru Shozokan